

令和6年度 特別支援教育公開セミナー

## テーマ「知的障害のある児童生徒に対する自立活動の指導の充実に向けて」

期日：令和6年8月23日（金） 場所：長崎大学教育学部

長崎県教育センターの麻生啓介先生、長崎大学教育学部の西村大介先生をお招きして、講演や実践報告、協議演習など行いました。

遠くは島しょ部や南島原、平戸など県内各地から、また、幼稚園や保育園、小中学校、特別支援学校、福祉関係者や保護者など多くの方にご参加いただき、100名を超える大変盛況な今年度のセミナーとなりました。当日の様子と、一部ですが参加者の方の声を掲載しております。

地域の皆様と一緒に特別支援教育の更なる充実を図れるよう、本セミナーは次年度以降も継続して取り組む予定です。関心のある方は、次年度ぜひお待ちしております。

麻生先生には、学習指導要領を踏まえた基礎的で理論的なお話ををしていただきました。



主催者の予想を超える多くの方にご参加いただきました。



実践報告では、学習指導要領の流れ図を丁寧に押さえた実践、卒業後も見据えた高等部の実践的な実践、小学校の実情を踏まえた理論的な実践と、どれも内容の濃い実践報告でした。



西村先生には、各実践報告について、理論的な視点でご助言をいただきました。



協議演習では、架空事例を上げ、中心的な課題の背景分析や、具体的な指導内容の検討を行いました。各グループ活発な意見交換が行われました。



## 参加者の皆様の声（アンケートより一部抜粋）

同じ悩みをもち、共感できる人達との話ができる有意義な会でした。

特別支援学級の実践を聞くことができたのがとても良かった。支援学級での自立活動の様子がよくわかったし、実践が素晴らしかったです。

センターの先生の理論的な話も実践発表も分かりやすく勉強になりました。

協議、演習が大変勉強になりました。

先生方と一緒に課題を考えるひとときが、明日からのモチベーションになりました!!

実態把握から中心課題、目標設定、指導内容、般化まで基本的な知識を学ぶことができてよかったです。

初めての支援学級担任で不安でしたが、中心課題の抽出方法など、これからに生かせる視点を学べました。

実践を聞いて自立活動の組み立て方が理解できました。

今後も参加したいと思えるセミナーでした。異校種の先生と話せる場が貴重でした。

その他、開催方法や内容について、今後の参考になるたくさんの意見をいただいております。  
ご回答いただいた皆様、ありがとうございました！！

## 事前質問でいただいた声

当日の内容に含まれなかった質問について、お答えできる範囲で回答させていただきます。  
十分な回答とはならないと思いますが、どうぞご了承ください。

難聴児童への構音指導、助詞や副詞の指導法、擬音語や擬態語など音から入る言葉の指導方法を知りたい。

自立活動（時間の指導）の、年間35時間の設定について

集団の中で、個々の指導目標に迫る指導体制や授業づくりをどのように行えばよいのか。

本校でも、実践している先生はいらっしゃいますが、聾学校は、より専門的な知識と実践をおもちと思いますので、教育相談をされるのもよいと思います。

「指導時数は、児童生徒の実態に応じて適切に定める」とあり、35時間との規定はありません。年間総時数を超えないように配慮する場合は、教科等の時数を減らすことになりますので、自立活動の内容も踏まえて検討が必要です。特別支援学校でも、肢体不自由校や病弱校などは小中学校に準じた教育課程ですので、参考になるかもしれません。

まず個々の指導内容を立てること、その上で、「時間」か「教育活動全体」か、指導場面の整理が大切です。時間で取り組むことは指導内容の絞り込みが重要だと感じます。授業においては、一単位時間の中に各子供に焦点を充てる活動を一つずつでも必ず入れるようにするのも一つの方法かもしれません。お尋ねいただいた点は本校でも課題の一つです。その悩みにお応えできる研修会の企画や実践報告を、今後も検討していきます。